

秦野市青少年指導員だより

第42号

発行/秦野市青少年指導員連絡協議会 編集/秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会



体育館一面のパーテーション

子どもたちに さらなる可能性の場を

私たち青少年指導員は、未来を担う子どもたちがより健やかに成長していくことを願い、一年間をとおして、地域の様々な行事や活動を支えています。今回は、南地区での「親子防災体験キャンプ」と西・上地区の新年を迎える「正月飾り作り」、そして茅ヶ崎市との間で行われた夏の青少年交流キャンプの様子を紹介します。

甚大な被害をもたらした三月十一日の東日本大震災から半年以上が過ぎましたが、震災直後には、四十万近くの人々が避難所生活を余儀なくされました。こうした避難所での生活は、子どもたちの心に多大なストレスを与えます。子ども自身が恐ろしい体験をしていたり、家族や友達を

東日本大震災を教訓に

九月十七日(土)と十八日(日)の二日間、南小学校体育館にて「親子防災体験キャンプ」を開催しました。二〇〇九年にスタートして以来三回目となる今年度は、南小学校と南が丘小学校の児童・保護者十組二十八名、ジュニアリーダー、スタッフを含め総勢約八十名が参加しました。

親子防災体験 キャンプ 南地区

失っていたりするでしょう。そこで今回のキャンプは、「避難時でも子どもたちの笑顔は大切はず」をテーマに、避難所での生活体験や応急手当法といった訓練性の高い防災体験だけでなく、遊びを通じた心のケアの必要性を学ぶことも目的の一つとしました。

ジュニアリーダーへの期待

南地区では日ごろから、地域の行事の際に子どもたちのお兄さんお姉さん役としてともに活動してくれる、中学生を中心としたボランティアメンバーの育成を図っています。その「ジュニアリーダー」に活躍してもらうことにしました。

実際に東日本大震災の被災地でも、大人たちは生活



ジュニアリーダーとゲーム

茅ヶ崎市・秦野市 青少年交流事業

八月(火)、三日(水)の二日間にわたって茅ヶ崎海岸、表丹沢野外活動センターを中心に、茅ヶ崎市・秦野市青少年交流事業が両市の主催で開催されました。この事業は、自然とのふれあい、仲間とのふれあいをとおし、豊かな人間性を身につけるための研修として昨年からの開催されています。

◆地引網

応募による市内の小生が、秦野市役所前を午前八時過ぎに出発しました。約三十分で茅ヶ崎海岸に到着。茅ヶ崎市から歓迎の言葉をいただいた後、先方の子どもたち、ジュニアリーダー



力を合わせた地引網

たちと顔合せをしました。午前十時から、茅ヶ崎市の網元の協力で地引網が行われました。秦野の子どもたちは海に接する機会が少ないためか、目を輝かせながら積極的に網を引いていました。網が海岸に近づくにつれて、どれだけ獲れるか期待が膨らみます。見事に、アジ、サバのほか、体長五十センチもあるスズキや銀色に光るタチウオなど、普段はお目にかかれない魚が獲れました。



何が獲れたかな

ゲームで一休み

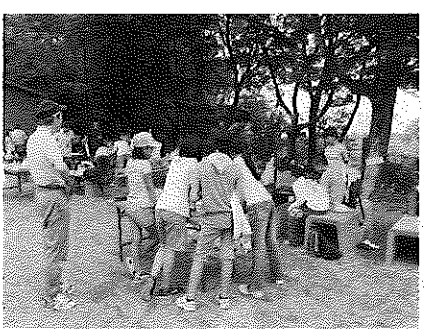
最後は手に持って記念撮影と、大いに好奇心を刺激されたようです。

茅ヶ崎市の「しおさい南湖」で昼食後、ジュニアリーダーを中心に簡単なゲームを行い、さらにお互いが打ち解けあいました。

◆バーベキューと キャンプファイヤー

その後、表丹沢野外活動センターにバスで移動。午後三時に到着後、開村式が行われました。

夕食は、班ごとに分かれて、協力しながらバーベキューを行いました。日ごろ料理をする経験の少ない子どもたちが、苦勞しながら火をおこすことから始めたことは、とても良い経験になったと思います。地引網



班毎にバーベキューの準備

で獲った魚を焼くほか、秦野市の職員の方に刺身にしていたいただき、海での思い出とともにおいしくいただきました。自分で獲った魚を食べるといことは、自然の恵みに感謝する、格別の体験であったようです。また、魚が苦手だった子が、魚のおいしさを知ったりもしたようです。この頃には両市の子どもたちはすっかり打ち解け、夕食後のすいか割りや歓声がこだましました。夜は、キャンプファイヤーでさらに交流を深めました。ここでの進行は、茅ヶ崎市のジュニアリーダーが務めました。最後に花火を行い、床に就きました。

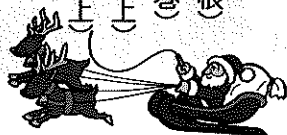
◆山遊び

翌日は、朝食後、くずはの泉周辺ハイクを行い、水の音を聞いたり、水遊びをしたりしました。ここでは、茅ヶ崎市の子どもたちに秦野市の自然を満喫してもらいました。

午前十一時に閉村式を行い、茅ヶ崎市のみななを見送った後、市内の子どもたちもそれぞれ帰路につきました。

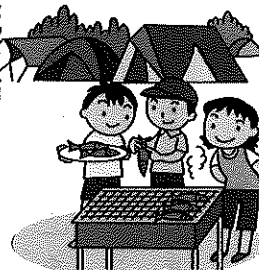
広報委員

- 岡井 知江(本町)
- 幡井 康雄(本町)
- 菅沼きぬ江(南)
- 溝口 雅之(南)
- 久保 光弘(東)
- 片野 良一(北)
- 佐藤 正男(天根)
- 西村 正広(鶴巻)
- 青木 秀之(西・上)
- 伊藤 恵子(西・上)



◆交流の輪

今回の交流事業では、お互いの市の自然をそれぞれに体験できるプログラムをとおして、たくましく成長する子どもたちの姿が印象的でした。来年も多くの秦野市と茅ヶ崎市の子どもたちが交流を深めて欲しいと願ってやみません。



の再建に忙殺されて子どもたちに関わってやれず、現地の中学生や高校生が、ボランティアとして重要な役割を果たしている」と聞きませした。

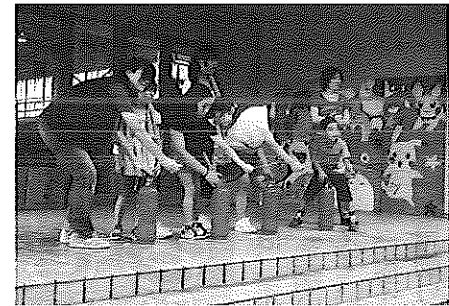
中学校を通じてイベントを告知したところ、二十六名が参加してくれました。

親子での避難所共同生活

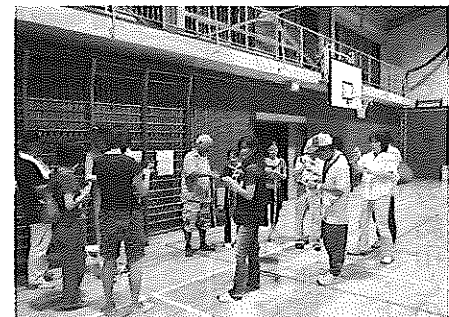
まず避難所での寝泊まりを体験するため、秦野市から実際の避難所設営時に使用するパーティション（仕切り）を借用し、家族ごとに区画を割り当て、その中で段ボールや毛布を使って寝泊まりしてもらいました。パーティションひと区画の大きさは、一辺百八センチ、高さは八十センチで、立ち上



心肺蘇生法の訓練



水消火器での消火訓練



ロープワーク学習

シーの低さをしみじみと実感されている様子でした。夕食には、秦野市の防災課から提供を受けたアルファ米を主食としていただきました。加えて、薪を燃料にしたかまどを使って豚汁の炊き出しを実施しました。

怪我や火災に対する対処方法、災害発生直後のサバイバル法の習得

秦野市防災士会の方々にご指導いただき、参加者・スタッフ全員が、心肺蘇生法、AEDの使い方、災害用伝言ダイヤルの使い方、応急搬送法、水消火器を用いた消火訓練、そして、三角巾の使い方やロープワークを学びました。大震災の後ということも

あつて参加者の防災意識は高く、幼児に対する心肺蘇生法は？とか、秦野市内におけるAEDの設置場所は？といった具体的な場面を想定した質問が熱心になされていきました。

また、夕食準備の時間には、災害発生直後の物資不足を想定し、ポリ袋や空き缶を使った炊飯法も実際に体験してもらいました。



空き缶を使った炊飯

ジュニアリーダーと子どもたちの交流

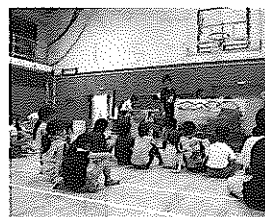
こうした大人たち向けのプログラムと並行して、ジュニアリーダーが主体となった子どもたちの遊びの時間を設けました。子どもたちはすぐに打ち解け、飽きることなくさまざまな遊びを楽しんでいました。

遊びの内容は、紙飛行機づくりや風車づくりといった紙工作、陣取り遊びやシッポ取りといった体を動かすゲーム、そして、就寝前の紙芝居と絵本の読み聞かせです。

普段の部活や塾通いの中、この企画に向けた工作や紙芝居の練習を重ねて、本番に臨んでもらいました。終了後のアンケートを見



紙工作で風車づくり



大型紙芝居の観賞

最後に

少子高齢化が進む中、地域活動におけるジュニアリーダー、中学生の活躍が求められる場面・フィールドは、今後ますます増えてくるのではないのでしょうか。中学生の持っている潜在能力を、さらに活かす形での指導員活動が求められてきているという気がします。

今回の企画にご参加ご協力いただいたすべての方々に、あらためて御礼申し上げます。

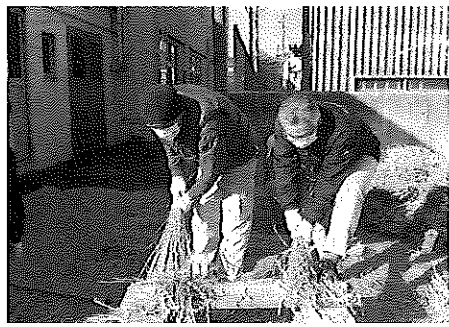
西の親子伝承講座 正月飾り作り

西上地区

西公民館事業として行われている恒例のお飾り作りの季節がやって来ました。今年で二十回を迎える人気の事業です。手作りのお飾りで新年を迎え、一年の幸せを願う伝統の行事です。

わらすき

この作業は指導員が、一週間ほど前から準備を始めます。お飾りには、その年に収穫した米のわらを使います。地元の農家で分けていただいた稲わらを用意して（余分なわらを取り除き）、きれいな束にまとめます。最後に霧を吹いて準備完了！



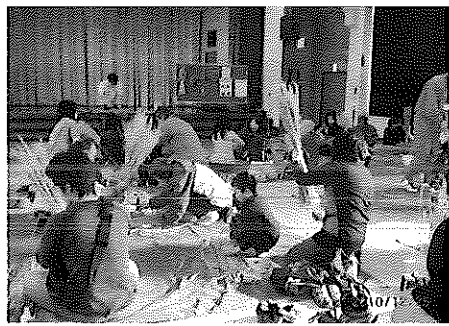
準備のわらすきが大切

作業は、わらまみれになりながらも、どこかなつかしい感じがして、楽しく出来ました。

お飾り作り

いよいよ、本番当日です。公民館の会場には、四十名ほどの老若男女が集まりました。作り方の講師は指導員が担当します。地域の行事を子供たちに伝えていくことも私たちの大事な役目と思っております。

作るのには、しめ飾り、輪飾りです。各自にわらの束とうらじろ、だいたい、ゆずり葉、紙垂（かみしで）などの材料が配られます。まずは、しめ飾り作り。わらを一掴みくらい用意して、根元の方をひもで縛り、



まずわらを揃えて



見事な出来上がり

穂先に向かって三つ編みをしていくのですが、皆さん悪戦苦闘！なかなか上手にできません。それでも指導員の助けを借りたりしながら、立派なお飾りが出来ました。

輪飾りは縄をなう作業が必要になります。手のひらでわらを捻（よ）るのが難しく、思うようにいかない人が多かったです。作り始めて二時間余り、それぞれに作る人の個性が伺える素敵なお飾りが完成しました。



参加者の声

「毎年参加しています！手作りだしめ飾りが出来るので最高です」と主婦の方。また初めて参加した小学生の女の子とお母さんからは、「自分たち出来るだろうが心配でしたが、教えていただきながら楽しく出来ました。また参加します」とうれしいお言葉。好評のうちに、終了することが出来ました。

神奈川県青少年指導員大会



黒川雅夫 県副知事のあいさつ

十一月二十日（日）、大和市生涯学習センター ホールにおいて、第四十四回神奈川県青少年指導員大会



後はお正月を待つばかり

が「わたしたちができることとみなんで育てよう！未来を作る子どもたちを」をスローガンに開催されました。

厚木・海老名両市による活動事例発表のほか、神奈川県愛川町出身の極地マラソンランナー 赤坂剛史氏の講演「世界で最も過酷なマラソンで学んだこと」南極マラソンへの挑戦」を拝聴しました。来年の第四十五回大会は、横浜地域での開催になります。